「子どもを祝福する」　2023年09月29日

イエスに触れていただくために、人々は乳飲み子までも連れて来た。弟子たちは、これを見て叱った。しかし、イエスは乳飲み子たちを呼び寄せて言われた。「子どもたちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。よく言っておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない 。」（ルカ18：15～ 17）

主イエスの所に、子どもや乳飲み子を連れた母親たちが集まって来た。当時、ラビ（宗教的指導者）を見つけると、母親たちは子どもの頭に手を置いて祝福を祈ってもらおうと、寄って来ていた。主イエスは、民衆の関心の的であったので、母親たちは主イエスを見て、子どもの祝福を求めて、駈け寄って来たのである。肉を持って生きた主イエスはどのような方であったのかと、様々な姿を想像する。厳しく直截な物の言い方、毅然とした態度から、近寄り難い威圧的な印象を与える面もあっただろう。しかし、実際の主イエスは微笑んでいて、ユーモアがあり、傍に寄って行きたいような方ではなかったか。そうでなければ、人々は群がることがなかったと思うからである。母親も子どもたちも、主イエスに親しみを覚えて、集まって来たに違いない。ところが、弟子たちは寄って来る母親たちに離れるように叱った。子どもは女性と同様に律法の外に置かれた存在とされ、まして、乳飲み子は宗教とは無縁な価値なきものと見なされていた。今、弟子たちは、主イエスから大切な宗教問題に関して、教えを聞いている。そこへ、子どもと母親の闖入は場違いだ、向こうへ行きなさいと叱ったのである。弟子たちの主イエスへの熱心さの現れと見るべきであろうか。しかし、主イエスは子どもと乳飲み子たちを呼び寄せて言われた。「子どもたちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。よく言っておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない 。」主イエスは、子どもを排除されず、一人の人間として受け入れられ、小さき者の尊厳を守るように示された。これは、当時の価値観を逆転させるものであった。そして主イエスは、子どものように神の国を受け入れる者が、神の国に入る、即ち、神を信じ、神と共にあると語られた。「子どものように」とは、どのようなことであろうか。子どもは純真とか、素直とか言われる。それは、大人から見て、子どもの行動の裏にある心が分かるので言われることであるが、子どもは結構自己中心で、わがままである。主イエスが「子どものように」と言われたことに、私は二つのことを思う。一つは、子どもは大人の作った価値観を持っていないので、事実をそのままに受け入れる。色眼鏡で見ることなく、出来事を直視する。子どもは、主イエスが現わされた神の国の真実と喜びを真っ直ぐに受け入れ、「イエスさま、大好き」と言うだろうと容易に想像できる。二つ目は、子どもは自分の弱さを知っている。知っているから、自己中心にならざるを得ないのであるが、自分の弱さを知る者は、助けを無心で受け入れ、それを、心から喜ぶ。子どもに、全能の神の愛と守りを説くと、見たこともないのに、何の抵抗もなく神を受け入れ、信じ、喜ぶ。子どもは、私の力や誇りなどとは言わず、神の大きな愛と守りを率直に信じ、安らぎを受け取っていく。主イエスが「子どものように」と言われたことは、何よりも、自分の弱さを知って、神に身を委ねる無垢な姿を指しているのではないか。